

つ。大野は広い穀倉地帯を持ち、歴史もあり、地理的にも中央に近く、合理的にも中央に近く、有利な時代。地元の良さが、繁栄につながる」と

(米村安弘)

約40人が学校給食の先進事例や役割などを学んだ研修会＝16日、坂井市三国町の県坂井合同庁舎



地場産給食 役割学ぶ

坂井 県研修会で市民ら40人

学校給食の地産地消を推進する農林漁業者や市民らを対象にした研修会が16日、坂井市三国町の県坂井合同庁舎であった。約40人が食環境ジャーナリストの講演などから先進事例や学校給食の役割を学んだ。

おつと、県が本年度から始めた事業の一環。坂井農林総合事務所と坂井地区農業振興協議会が開いた。

地場産の食材を使った和食給食を通して子どもたちに福井の食文化や和食への理解を深めてもら

「地域で育てるこれからの学校給食」と題して食環境ジャーナリストの金丸弘美さんが講演した。給食の時間に生産者が食材を紹介したり、保護者を交えて献立を開発するなど、地域と連携した全国の小中学校の取り組みを紹介。その上で「給食の役割は子どもたちの健康づくりと地域の食文化についての理解を育むこと」と強調し、「給食を食べるのは年間200日間にも満たない。保護者も栄養のバランスについて学ぶなど、家庭での健康な食事を忘れてはならない」と食育の重要性を訴えた。

卒園記念の笑顔絵に

大野、漫画家松田さんが筆

大野市陽明町4丁目のアマチュア漫画家、松田テルオさん(82)が17日、同市の亀山保育園を訪れ、今年も今春卒園する園児の似顔絵を描いた。園児たちは世界で一枚しかない自分の似顔絵に、満面の笑みで喜んでいた。

松田さんは時事漫画を投稿したり、国際的なコンクールで入賞するなど漫画歴約60年のベテラン。卒園前の似顔絵ボラ

ンティアは10年以上前から行っており、同園の恒例行事となっている。松田さんは園児と対面で座り「絵を描くのは好き?」「どの小学校に行くの?」などと、緊張を解くように声を掛けながら作業。鉛筆や水彩絵の具などを使い1枚ずつ仕上げていった。

藤田清斗君(6)は「思ってたよりすくなくてびっくりした。うれしい」と笑顔。松田さんは「子どもたちからエネルギーをもらえ若返る。来年も描きたい」と顔をほころばせていた。廣瀬義輝園長は「保育園の歴史の一つ。毎年、一生懸命していた

同市三国学校給食センターの加藤昭治センター長による地場産の甘エビやナシを使った献立作りなどの活動報告や、給食の試食もあった。

(米村安弘)

(児島崇之)